

涅槃經に転重軽受と申す
 法門あり。先業の重き今生に
 つきずして、未来に地獄の苦
 を受くべきが、今生にかかる
 重苦に値い候えば、地獄の苦
 しみぱっときて死に候え
 ば、人天・三乗・一乗の益を
 得ること候。

(御書新版1356ページ・御書全集1000ページ)

通解

涅槃經に「転重軽受（重きを転じて軽く受く）」という法門がある。過去世でつくった宿業が重くて、現在の一生では消し尽くせず、未来世に地獄の苦しみを受けるはずであったものが、今世において、このような（法華經ゆえの大難という）重い苦しみにあったので、地獄の苦しみもたちまちに消えて、死んだ時には、人・天の利益、声聞・縁覚・菩薩の三乗の利益、そして一仏乗の利益たる成仏の功德を得るのである。

今の挑戦が未来の勝利につながる！

よくわかる解説

皆さんこんにちは、レオです！ 夏の暑さに負けず、鍛えの日々を送っていきましょう！

今回学ぶ「転重軽受法門」は、1271年（文永8年）10月5日、下総国（現在の千葉県北部等）の門下である大田乗明、曾谷教信、金原法橋に宛てられたお手紙です。大聖人は、同年9月12日、「竜の口の法難」に遭われます。その後、流罪地・佐渡へ出発される大聖人のもとを訪れた3人（あるいはそのうちの1人）に対し、真心を込めて本抄を認められました。

「転重軽受」とは、正法の実践によって過去世の重罪を転じて、現世でその報いを軽く受け、消滅させること。大聖人は、この「転重軽受」の功德について、「地獄の苦しみぱっときて」と仰せです。題目を唱えることで、自身の心に見わる仏の生命が現れ、過去世からの報いである苦境を全て乗り越えられるんだ。

僕の友達は、ある時、足に腫瘍が見つかって、手

術をすることになったんだ。医師からそんな説明を受けたら、“これからどうなるんだろう”と、不安になるよね。それでも彼は、家族や友達からの励ましを受けて、「この宿命を使命に変えてみせる！」と、必死に題目に挑戦した。祈る中で、勇気の心が湧いてきて、手術を前向きに捉えることができたんだ。その後、手術は無事成功。術後のリハビリにも一生懸命取り組んだ彼は、医者も驚くほどの回復力で、今では走れるまでになったんだ。当時のことを、「同じような悩みを抱えた人を私自身の姿で励ませるように、この試練があったんだと思う」と振り返っているよ。

池田先生はつづっています。

「自分の『無限の可能性』を信じ、たゆまず題目を唱え抜いていく中に、必ず『仏』の生命は脈打ち、いかなる逆境も断じて良い方向へ転じていける。途中はどうあれ、最後は絶対に勝利できるのです」

今の挑戦が、未来の勝利につながると確信して、自身の可能性を大きく開く夏にしていこう！